

ごあいさつ 防府天満宮 宮司 鈴木宏明

防府天満宮の御神幸祭「裸坊祭」は寛弘元年（1004）一条天皇の使者が、菅原道真公が無実の罪で太宰府へ左遷の途次ご着船された防府の勝間の浦（現在の御旅所）で、「無実の知らせ」を防府の道真公の御霊へ奉告したことを起源とします。以来、毎年毎年道真公の御霊を御旅所にお連れし「無実の知らせ」をお伝えし、千年以上も続く祭りとして大江氏や毛利氏の庇護のもと、市内はもとより近郷より多くの方々に参拝頂いております。この祭りで道真公の御霊を御網代神輿にお乗せし御旅所にお連れするのが「裸坊」といわれる奉仕者です。

その裸坊は安芸の国、石見の国からは陸路、瀬戸内海や国東半島からも船で三田尻に上陸していたそうです。江戸時代「防長風土注進案」（1842）に「裸素足のお供数千人、声を上げ押し合い馳せ行き、足も地につかず・・・還御の時は大石段車を解かず引き上げる時も数千人・・・」とあり裸坊の勇壮さが伝わってきます。また昭和41年の社報「さかたり」には「市内映画館や銭湯の割引き、飲食店組合は午後8時まで各店にて出来るだけサービス・・・」と記されており、まち全体に溢れる賑わいと活気が目に浮かんできます。

防府天満宮では令和9年御神忌1125年式年大祭を迎えます。大祭の成功のため「1万人裸坊奉仕」を達成し、裸坊の力を天神様のお力に、そして天神様のお力が防府の力となりますようご協力を宜しくお願い申し上げます。

防府の未来 あなたの力で
裸坊一万人達成！



ごあいさつ「裸坊二本締め」 裸坊奉仕会 会長 澤田健規

「扶桑菅廟最初 兄弟わっしょい 兄弟わっしょい よ～おパンパン」

これが「裸坊二本締め」です。私たち裸坊奉仕会では、御神幸祭において御還幸し御網代神輿が御殿に納まると、私の発声により奉仕してくれた裸坊たちとこの「裸坊二本締め」を行い無事の奉仕を祝います。また裸坊実行委員会の集会の中締めでもこの「裸坊二本締め」を行い、連帯を深め「これからもよろしく」といった意識を高めています。

裸坊奉仕会とは「市民こそって裸坊奉仕に参加し、名実ともに日本一の祭りにしたい」との思いにより防府商工会議所を中心に昭和40年発足しました。特に市内企業団体を中心に参加の呼びかけを行い、お祭りムード盛り上げに努めてきました。

一方、裸坊実行委員会は約300名で組織され、裸坊祭が安全・安心にできるように、祭り当日、現場で具体的な指揮をするのが仕事です。みなさんご承知の通り、あの500キロを超える御網代神輿が御殿から大石段を滑り降りすわけですから、裸坊や観客が怪我なくご奉仕できるように、その雑踏あかわんの中で安全ロープ係、台車結束係、命綱係などの役目を受け、体を張って安全に運営してくれています。いわゆる赤腕。さらに紫腕章と青、黄色の腕章をした人たちです。

裸坊奉仕会並びに裸坊実行委員会では勇壮であるがゆえに起こるいざこざも「よ！兄弟」で事を収め、最後は「裸坊二本締め」。ある意味、この祭りで一年を納めます。



一万人裸坊奉仕 兄弟わっしょい

ボクもね、YouTubeで
裸坊中継をしたことあるけど
面白い祭りじゃね～

県民は皆兄弟！
裸坊は楽しいね！
みんな元気いいから

あなたで
一万人！

松村邦洋さん

それらの対策の一つとして「社内の気運を向上させる」ことも重要な要素だと考えております。スマホ、SNSが日常のインフラになった時代、利便性が高まる一方で人との関係が希薄になり「分かれあうこと」の機会が少なくなっている気がします。やはり企業は人が作るものではないでしょうか！私はこのような時代にこそ、飲食を共にしコミュニケーションを計る地域の祭りを先人の「知恵」として活用することも有効だと感じています。

そこで防府といえば防府天満宮の裸坊祭。「兄弟わっしょい」。一年に一度、老若男女、職の上下もなく、裸坊となりまた裸坊を応援し、社員一同帰属意識を高めることが諸問題に対応する「目に見えない力」となるのではないのでしょうか。

現在、防府商工会議所では市制90周年を迎えた防府市と共に「裸坊1万人奉仕を目指して、あなたで1万人の運動」を促進しています。この運動により防府市の交流人口も増加し、人が輝く企業で商工業が発展する防府のまちとなるよう願っています。

ごあいさつ

防府商工会議所では常に防府の商工業の発展と「まちづくり」を車の両輪と考え活動しております。その中で世界の動向や人材確保の問題、また国内に目を向けても少子高齢化は待ったなしの問題であります。これらの問題に直面する中で各企業では様々な対策を講じていらっしゃると思います。

裸坊奉仕一万人
プロジェクト実行委員会 会長
防府商工会議所

会頭 羽嶋秀一



裸坊になるぞ

一万人裸坊を目指して！

A.1 個人の場合

その① 個人参加したい人たちがグループを作り、企業・団体と同様に申し込む。

その② ルルサスに個人参加者のための受付を設けます。

A.1 企業・団体

企業や団体は天満宮の HP から申し込むか、参加申込書を印刷して必要事項を記入し、防府天満宮へ FAX あるいは郵送してください。
申し込み完了です。

Q.1

裸坊に出たいんだけど
どうしたらいい？

Q.2 申し込みをしないとイケないの？

A.2 祭ですから申し込みなどしなくても参加できますが、申し込んでいただくと特典があります！

特典その1

企業や団体の名前が入った提灯を1基、天満宮から進呈いたします。
2基めからは実費でいくつでもお作りいたします。

特典その2

オリジナルの“裸坊ハチマキ”を人数分差し上げます。
裸坊奉仕されたあとのハチマキは受験生のお守りとして喜ばれています。

特典その3

小冊子「兄弟わっしょい」や御神幸祭時の交通規制図チラシにご芳名を掲載いたします。

Q.3 決まった「裸坊スタイル」があったよね？

A.3 裸坊だからハダカというわけではありません。上半身にはサラシを巻いてご参加ください。

サラシの巻き方は先輩たちに教えてもらうか、YouTubeを参考に！▶



Q.4 サラシはどこで手に入るの？

A.4 祭の前になると市内の作業服販売店や大手スーパーの売り場に並びます。
中村被服(株)に問い合わせてもOK！ 一式揃います。
(0835-21-3515)

A.5 Q.5 裸坊に参加したら、何かいいことがあるの？

「会社での人間関係が最近どうもね～」という場合も、祭に参加していっしょにお酒を飲み（もちろんノンアルもOK）、おいしい料理を食べて神輿を担ぎ、お網代を運び、大声で「兄弟わっしょい！」と言いながら肩を組んで練り歩けば心はひとつ！ 翌日からのやる気・元気・負けん気、エネルギーが充填されます！ 社長は安心、社員も喜び、企業は安泰！
「最近、毎日が単調で・・・」というような場合も祭の持つ非日常感とともに達成感、高揚感を味わうことができます！

Q.6

女性は出られないの？



A.6

「もちろん女性も出られます」と言いたいところですが、裸坊祭はとても勇壮で、時には荒々しく危険を伴うこともあるので「女性は出ない」というふうに言われています。女性や子供さんは準備を手伝ったり、出発式に参加して一緒に氣勢をあげたり、あるいは沿道で行列に「兄弟わっしょい！」とげきを飛ばしてやってください。裸坊たちはとても勢いづきます。
日曜日には「天神おんな神輿」奉納もあるのでそちらに参加して祭の熱気を体感するのもあり！

Q.7

昼間はそれぞれに神輿を担いでいるけど、あの神輿はどこで用意するの？

A.7

神輿は基本的には参加団体でご用意いただきます。神輿には酒樽が似合いますが、自社の製品を載せてPRしている神輿もあります。
8人いるとけっこうよく担げるよ！

※神輿の土台は約5万円で制作できます。神輿は毎年使うことができます。
詳しくは防府商工会議所まで。
TEL 0835-22-4352

Q.8

神輿があっても市外で遠い・・・。

A.8

神輿はトラックなどでJR防府駅（みずかぜ広場）までお持ちください。参加者は車かJR、バスなどで防府駅（みずかぜ広場）に集合して出発するといいですよ！
天満宮までは当日午後3時から5時くらいまでのあいだがより安全に巡行できます。天満宮に到着したら奉納神輿は誘導係の裸坊の指示に従って所定の場所に収めてください。

そしていよいよ午後6時で発輦！
みんなで2基の神輿とお網代を奉じて大石段を威勢よく降り、御旅所（勝間の浦）までお供をお願いします。
御旅所での「浜殿神事」ののち、天満宮へのご帰還もお供するのが最上！
神様への礼儀！
いっしょに神様を喜ばせ、そのご神威を授かっていただけたら幸いです！

御神幸祭裸坊祭の詳しい説明は防府天満宮のホームページを情報をご覧ください▼

